昭和五年六月廿六日第三種郵便物認可
昭和五年八月　十　日發行

町村新報

（第一〇六號）　町村新報臨時增刊　（一）

發行日　毎月二回　十五日卅日
編輯兼印刷發行人　酒井秀吉
發行所　福島縣石城郡磐崎村大字下湯長谷勝善三十八番地
町村新報社
定價　一ケ月金三拾錢
廣告料　五號活字十二字詰一行金二十錢　別色刷　四十錢

御承知下サイ　各位

軍制改革により　兵卒を優遇せよ

陸軍の軍制改革により少くも一千八百万圓位捻出し得ると、政府の意見であるが日清日露の役に參加して戰死又は負傷した人、又は生それにしても軍部の意見はどうか、そうした事も我々としては、どうでも聲を大にして兵卒を優遇せよと叫びたひ。

世界の大戰には我國では英佛の聯合軍に加擔し、其の結果莫大なる利益を得、國富が增加し、あの大景氣ならしめた、世間には俄か成金が輩出した。されば何故日本は成金になつたか、原因は何か

すると日清日露の戰役の結果、我國の國威が發展した結果で、世界の大戰も我國の陸海軍の威力の下に同盟國の勝利となり、我國も其の勝利の名譽を頒ち得たのである。して見ると何十億かの利益を得たのも、背後には陸海軍の强大なる援護があつたのである。

其の强大なる援護の大部分は兵卒の勳功であるはずだまづ斯ふ考へて見ると、ある一部のみが其の利益を獨つて、其の場合の御褒美も有力なる基礎になるやうにして戴きたいと願ふ者である。

平和の時代に於ては、國民は軍隊と否軍人と云ふ者を忘れ過ぎてゐる。

優秀なる兵卒を持つ事により村に漸次增加するとは想像つて其の國の武威は輝くのである。

其の優秀なる兵卒は國民全部が作つて戴きたい。

◆時事漫語◆

◎　◎　◎

百姓が田畑を耕やす生業でもう食ふ米がなくなり、先に安い米を賣り、今高い米を買つて生活をつないでゐる、こんな馬鹿げた事があるや金持や、地主や、お役人のやは少しも知らないでせう世の中の識者や、政治家や者生存强食弱肉の自然淘汰斗り見ては間違の本だ、報告といふものは先づ〳〵大主義が根强い、迷はされる世相ではないか。

◎　◎　◎

何でもスピード時代一分一秒もだまつて居ない、瞬間のよいもの斗りが集るもの

しかし義勇的奉公でなければ駄目だ的享樂主義である、其丈面倒になつて來た、雜誌の記事も實際の地方狀況には緣遠いものである、偶らぬ聲は地方の小新聞がして大きいもの强いものは無は今漸く大になつて來て居る。

◎　◎　◎

背に腹は變へられぬ、小學兒童の欠食騷ぎが田舍の農村では何にもならぬ負擔金を持て余して居る、諸所で廢止說が時々頭をもたげて來る、只お役人がある丈給料を取つて居る丈では効能がないではないか、食ふれし者が逸まつた爲に、生涯取り返しのつかぬ汚名を受けねばならなくなつた例は間々あるのであります。

故に吾人は事をなす場合又急ぐ折は奔流の如く猶豫を要すべき場合は泰山の如きを要するのであります、然かして急がんとして急ぎすぎてもならず、落ち付いて落ちつき過ぎてもならず時にのぞみ變に應じ相緩急して行くのが旅に立つた時の方法でもあり、社會線上に處して行く企であらうと思ひます。

社會に處するの道

渡邊保

吾人が社會に立ち幾多の難儀と戰つて行く事は丁度遙かに遠い國に旅立つ如きもので、或一日は豫期せざる險山に差しかゝる事あり、或るへは篠つく暴風雨に出合す日もあります然して此等の如き暴雨、峻嶽は旅に出でし以上は如何なる業を爲しても避けることが出來ません、此の業に等が社會の一人たる以上社會に生れし上は渦卷く社會の荒浪も又避ける事が來ないのであります、只時に應じ變に隨ひて行く先進むより外は道はありません、險山に面した際は道知邊を賴むとか風雨に遭遇した時には一夜を宿に明かし未明の天候を待つて先に進社會が六ケ敷なることは可笑しなものではないか、そしては見當らぬ、農村疲弊の聲ねばなりません、然して一理も通るが、小さいものの弱いものは正しくやつても吹き飛ばされる、小さいものは家も屋敷もすぐになくなる、銀行や會社は株主や關係者に一こうおかまいなノホンをきめ込んで居る、今の米價高は地主や富豪にのみ利益がある事になる面には余りスピートでなものが出來る、然し其本

×　×　×

良品廉賣に勝る商略なし
磐城セメント會社特約店
和洋銅鐵物問屋　釜屋商店
磐城平　電話九番　一三九番
確實敏捷は釜屋の生命なり

內科
小兒科
久田醫院
石城郡磐崎村下湯長谷